平成28年度

政策提言書

YEG

長崎商工会議所青年部

目次

はじめに
長崎商工会議所青年部　政策提言委員会　委員長　平川　友美

第一章　「夜景世界一のまち　長崎を目指して
～長崎の夜景から生まれるシビックプライド～」
長崎ＹＥＧの夜景への取り組み
提言のねらい
提言①「ロープウェイの活用
～夜景の魅力を引き上げるための新しい３つのルート～」
提言②「夜景ガイドの確立と積極的活用」
提言③「子供達から誇りをもって！
～シビックプライドは子供から～」
まとめ

第二章　「長崎ブランドの発信拠点の再構築」
提言のねらい
長崎の現状
提言①　長崎の食の魅力を発信しよう
提言②　長崎の伝統工芸を発信しよう
提言③　クールジャパンを創造し世界へ発信しよう
まとめ

おわりに
長崎商工会議所青年部　地域政策担当副会長　大串　龍大

平成28年度政策提言委員会　名簿

政策提言担当副会長		大串　龍大
政策提言委員会	委員長	平川　友美
	副委員長	林田　聡
	副委員長	長井　大輔
	委員	一力　愛
	委員	木下　文暁
	委員	坂上　隆弘
	委員	武田　誠
	委員	西　久晴
	委員	乘松　亮平
	委員	麓　浩二
	委員	松石　崇
	委員	松川　哲則
	委員	山崎　興介
	委員	橋口　雄樹
	委員	中嶋　勇一郎

はじめに

日本の総人口は、幕末から近年に至るまでほぼ一貫して増加し続けてきましたが、少子高齢化の影響により1970年代の後半以降、人口増加率は低下しています。2004（平成16）年から2005（平成17）年の人口増加率はついにマイナスを記録し、現在も対応策を見いだせず、人口減少局面を迎えています。

また、世界に目を向けると、米国のトランプ新政権の政策運営は現時点で不透明ながら、選挙戦で示した保護主義的な貿易政策やドル安志向を強く打ち出し始めており、今後も保護主義姿勢、円安批判が強まれば、輸出や企業収益の減少を通じ、わが国景気にもマイナス影響が出るのではないかと懸念されます。

しかし、長崎市は、観光客数においては、平成 27 年度は世界新三大夜景や軍艦島の上陸開始などの様々な取組により過去最高の 669 万人に到達しました。さらに、今後は平成 30 年に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」登録を目指し、平成 33 年九州新幹線西九州ルート・MICE 施設が開業予定です。この追い風の中で、観光客の拡大が見込まれており、この絶好の機会を十分にいかすことが求められていると感じています。

平成28年度政策提言委員会は、昨年度の提言で注目していただいた「稲佐山ロープウェイの延伸」をまず一つ目のテーマに決定しました。

そして、もう一つのテーマについて検討していく中で、長崎のように観光名所に恵まれた地域は他にはないですが、他県に出かけて長崎をPRするポスターや映像をあまり目にしないことに疑問を持ち、情報発信をテーマとすることにしました。

初秋には、ロープウェイを製造されている会社を視察し、ロープウェイの延伸をすることで起こる
経済効果や問題点をより深く理解することができました。また、その後、実際に延伸する場合のルートについても現地に足を運び、検証を行いました。

また、情報発信についても、現地調査を行いましたが、観光名所が豊富といわれながら訪日外国人向けの外国語表記や、情報通信環境など、まだまだ観光客が快適に旅を楽しめる環境ではないことが浮き彫りになりました。

これらの問題を解決していくことは大変困難だと感じます。しかし、私たち長崎に暮らす人が、心を合わせ「オール長崎」で知恵と情熱を注げば夢はきっと実現できると信じています。今から約380年前、長崎が外国に開かれていた数少ない窓口だったころは、新しい文化が押し寄せ、これらをどう活かそうかと知恵をしぼり、情熱を傾けて活動していたのではないかと推察されます。先人が遺してくれた長崎の宝を、現代の私たちがより魅力的なものにし、後世へ続く財産にしたいと提言をまとめるにあたりますます強く思いました。

最後になりますが、提言書作成にあたり、多くの方々にご助言、ご協力いただきました。大変感謝しております。誠にありがとうございました。

長崎商工会議所青年部　政策提言委員会委員長
平川　友美

1. プロジェクト名

「夜景世界一のまち 長崎を目指して ～長崎の夜景から生まれるシビックプライド～」

2. 長崎 YEG の夜景観光への取り組み

長崎 YEG はこれまで「地域経済の更なる発展に貢献する」という方針のもと、交流人口の増加や夜景観光の発展を目指し様々な事業を行ってきました。

平成 24 年度、「ひかりのまち長崎」を広くアピールする為「ながさき ひかるプロジェクト」について政策提言致しました。

平成 25 年度は世界新三大夜景を積極的に PR する事を目指し、世界的バイオリニスト葉加瀬太郎氏に長崎夜景のテーマ曲の「長崎夜曲」を作成していただきました。また、同年開催された「しおかぜ総文祭」の時には「光のおもてなし」を実施。市民に広く呼びかけ、カーテンを開けていただき街の灯りを増加させることで全国から来た高校生にさらに綺麗な夜景を見ていただくことができました。

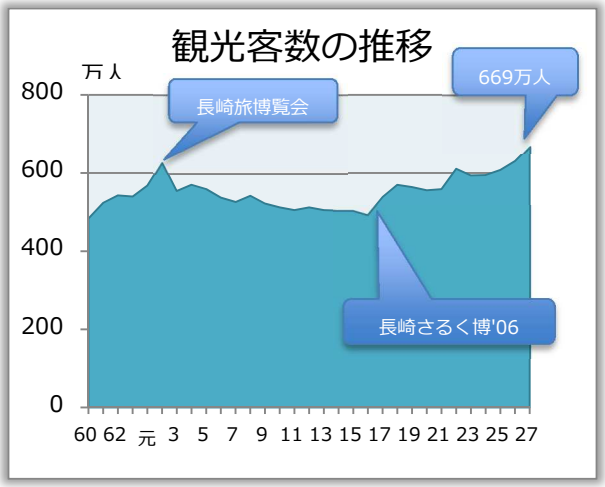
平成 26 年度は「長崎がんばらんば国体・大会」に合わせて長崎市内 35 社の協賛により、稲佐山山頂の電波塔を仮設でライトアップする「光のおもてなし 2014」を実施。期間中にお越しいただいた多くの皆様に 上から見下ろす夜景と下から見上げる夜景の両方を楽しんでいただきました。稲佐山展望台においては光と音の融合を目指し、定刻毎に「長崎夜曲」に合わせたイルミネーションショーを実施しました。

平成 27 年度は被爆 70 年を契機に、福山雅治氏の楽曲「クスノキ」を多くの長崎市民に 歌い繋いでいただくクスノキリレーソングプロジェクトを企画し、7 月下旬に開催された「ながさきみなとまつり」にて初お披露目しました。その後 Youtube において世界に発信。長崎の美しい夜景をふんだんに織り交ぜたこのリレーソング映像は平成２９年２月１日現在５万人以上に 観賞され、確実に夜景の PR につながっています。また、「福山☆夏の大創業祭 2015」に合わせて稲佐山電波塔のライトアップを福山氏サイドへ提案し実施されました。音楽と融合したライトアップは新たなる可能性を感じることが出来ました。また花火とライトアップとの競演も初めて実現しました。

平成２８年度は４月より稲佐山電波塔ライトアップの常設化が実現し、さらに 10 月からは音楽と融合した「稲佐山電波塔イルミネーションショー」がスタートしました。そして、これまでの夜景に対する取り組みが日本商工会議所に日本一と評価され「全国商工会議所きらり輝き観光振興大賞」を受賞しました。９月には前年度政策提言の実現に向けて考察するため「滋賀・神戸視察研修」を行い、稲佐山ロープウェイの施工・管理に携っている「安全索道株式会社(滋賀県守山市)」を訪問しロープウェイの基礎から現状、延伸の課題について研修し、政策提言へのご協力をお願い致しました。そして神戸の「摩耶ロープウェー」を視察し長崎の夜景観光について比較考察致しました。設置後のメンテナンスや沿線住民への配慮など現実的な課題も見え、摩耶山頂では美しい夜景と山頂で楽しむ施設の充実に感心させられました。しかし摩耶山とは違う稲佐山の手に届くような夜景の素晴らしさを再認識することができ、この視察研修により前年度政策提言のひとつであるロープウェイ延伸は長崎の夜景観光にとって、とても有効であり実現可能であると確信できました。

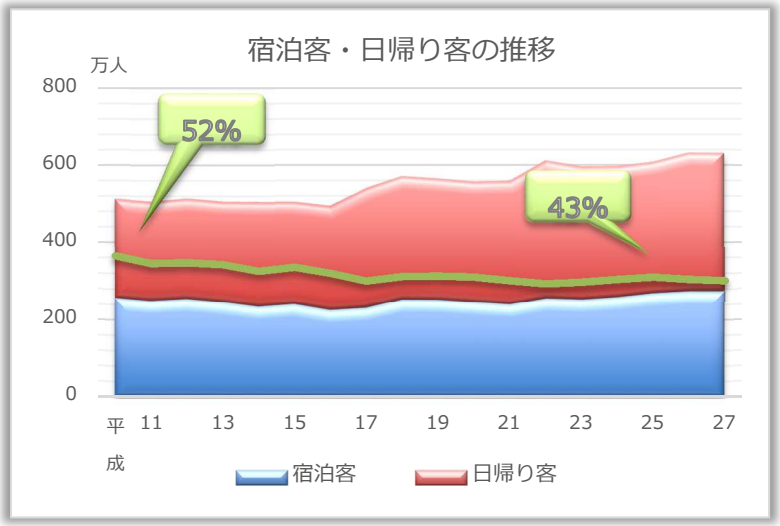
3. 提言のねらい

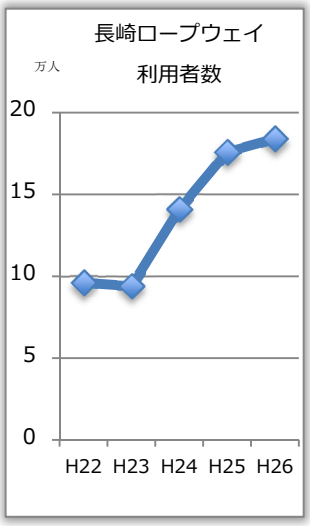
長崎市の観光客数は、「長崎旅博覧会」が開催された平成 2 年以降減少傾向が続いていましたが、「長崎さるく博'06 」前年の平成 17 年より増加に変わり、軍艦島への上陸開始や世界新三大夜景に認定された夜景の魅力を活かした取組み等によって、平成 27 年の観光客数は過去最高の 669 万人に到達しました。



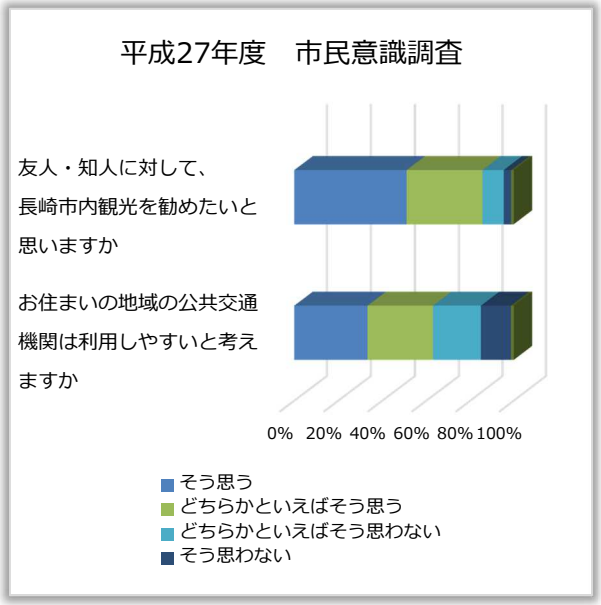
平成 30 年は「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録を目指し、平成 31 年「ラグビーW 杯 日本大会」においてスコットランドチームが長崎市で事前キャンプを行い、出島表門橋架橋が供用開始されます。平成 32 年は「東京オリンピック」が開催、長崎市は観光立国ショーケース

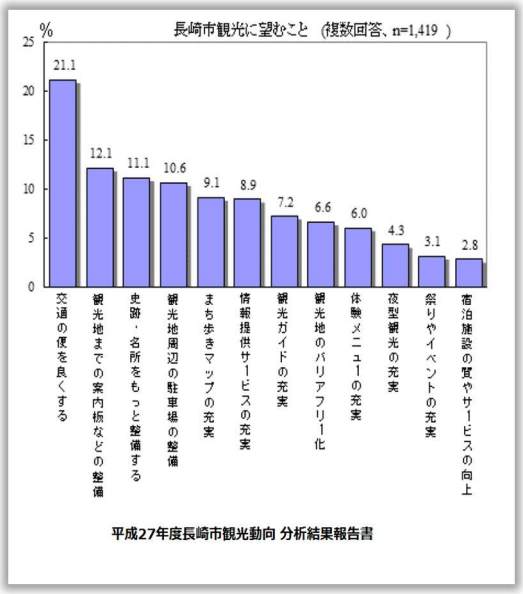
に選定されており、また被曝 75 周年を迎えます。長崎平和マラソン(仮)の計画もあるようです。平成 34 年は「九州新幹線西九州ルート」、それにあわせて MICE 施設が開業予定。そのほか、恐竜博物館、クルーズ船 2 バース化などが計画されています。この追い風の中で、知的欲求が高い日本人観光客の増加や東アジアを中心とした外国人観光客の拡大が見込まれており、この絶好の機会を十分に活かすことが求められています。





平成 26 年の宿泊客数は約 274 万人で、日帰り客数は 357 万人でした。宿泊客数については、平成 16 年まで減少傾向にありましたが、平成 18 年の「長崎さるく博'06」を契機に増加し、その後長崎ロープウェイのリニューアルや平成 24 年の世界新三大夜景認定の効果により稲佐山を中心とした夜景観光の推進が図られ、近年は増加傾向になっています。しかし、平成 27 年における全観光客数に占める宿泊客数の割合は 43%と平成 10 年と比較して、7.2%減少しています。一方、日帰り客数については、全体的に増加傾向にあり、「長崎さるく」や資源磨きの取組みが本格化した平成 17 年以降、年別の増減はあるものの、大きく増加しており、平成 27 年における全観光客数に 占める日帰り客数の割合は、57%となっています。

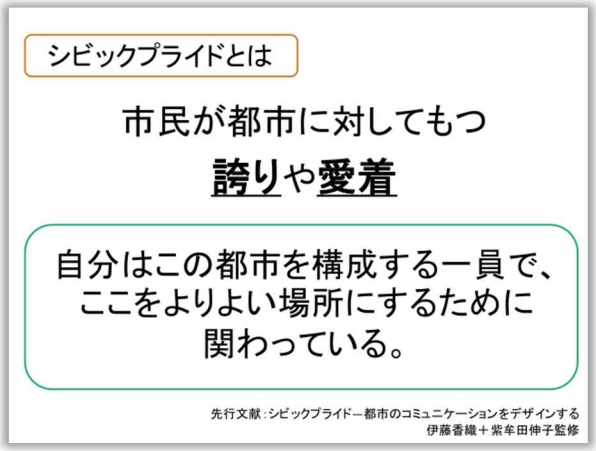




また平成 27 年度の市民意識調査では「お住まいの地域の公共交通機関は利用しやすいと思う」が 33%、「知人・友人に対して長崎市内観光を勧めたいと思う」が 51%とありました。「どちらかといえばそう思う」という回答を含めると非常に高い割合になるのですが、観光動向分析結果報告書では観光に来られた方が望むこととして「交通の便をよくする」「観光地の案内板の整備」という意見が挙げられています。当会でのアンケートでも「夜景については観光案内をする環境が整っていないのでは」「夜景を観に行く公共交通機関での行き方がわかりにくい」「長崎市民はわざわざ夜景を観に行くことがなく、またそれほど自負心が少ないのでは」と意見があり問題点と感じました。

観光産業を伸ばして行くためには、やはり宿泊客数の増加・宿泊日数の長期化が重要であり、我々はそれらを伸ばす要素として「夜景」のさらなる活用に大きな可能性を感じています。「夜景の視点場所への交通手段を利用しやすく！」「夜景の見どころをわかりやすく！」「長崎市民に夜景を自慢してもらいたい！」をねらいに提言をまとめました。

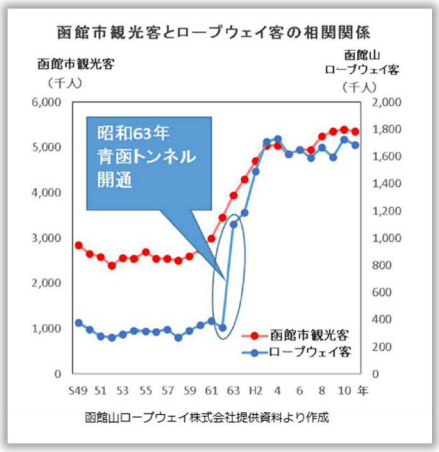
「シビックプライド（civic pride）」とは個人個人が都市（市区町村、商店街、沿線、など）に抱く誇りや愛着です。「まちをより良くするために、自分自身がかかわっているんだ!」そんな都市に対する市民の誇り＝「シビックプライド」は、市民一人ひとりに行動する力をもたらし、また都市を未来へと動かす推進力ともなります。市民の一人一人がまず夜景に誇りを持つことで観光に対する当事者意識を芽生えさせ、長崎の活性化につなげて



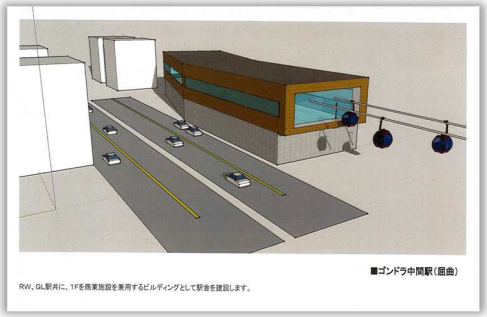
いければと考えました。長崎の夜景を世界一にして長崎の夜景を市民の誇りにしましょう！夜景世界一のまち長崎を目指すために長崎 YEG は提言させていただきます。

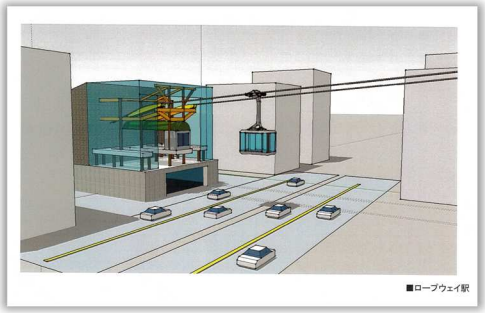
4. 提言１　ロープウェイの活用～夜景の魅力を引き上げるための新しい３つのルート～

昨年度長崎 YEG は政策提言のひとつとして 、長崎市が整備を進める新幹線が乗り入れる新しい長崎駅一帯と「MICE 機能を中核とした交流拠点施設」に稲佐山ロープウェイを延伸する案を発表致しました。その反響は思いの外大きく、多くの方々に関心を寄せていただきました。



函館市の観光客数は年間 495 万人で、長崎よりも下回る人数ですが、ロープウェイの利用者は 9 倍の 182 万人にのぼります。当初 40 万人程度だったロープウェイの利用者ですが、昭和 63 年の青函トンネルの開通や展望台の増改築、125 人乗りの大型ロープウェイの運航開始により利用者は 100 万人を超えました。ロープウェイへアクセスする環境の改善と大型設備導入により、夜景観光が活性化しています。成功事例として大いに参考にできれば長崎のロープウェイを進化し活用できると思います。そのために３つのルートを考えました。





【長崎駅⇒稲佐山ルート】

ルートは現在の長崎駅西口から浦上川沿いを通り、中間駅（現三菱重工業幸町工場敷地）で屈曲し、現行の淵神社駅へ到着するというものです。中間駅と考えている平成29年度末をめどに空き施設となる予定の「三菱重工業幸町工場敷地」は跡地活用の事業者を

2017年（平成29年）1月24日 火曜日　紙面編集・宮崎智明

三菱長船幸町工場

跡地活用策公募へ

三菱重工が工場再編後の活用法を公募する幸町工場一帯（中央の川沿い）＝長崎市（荒木勝撮影）

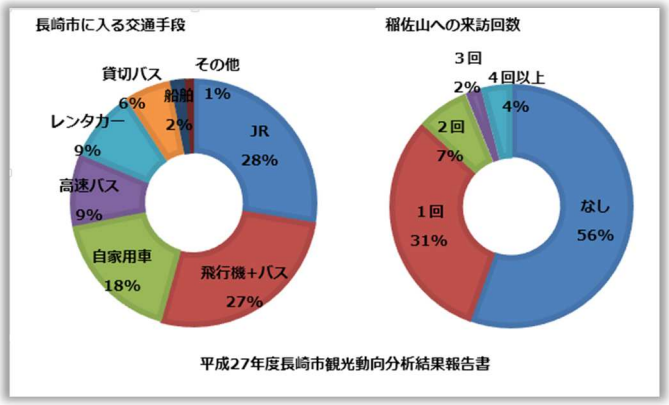
雇用・定住促進などコンセプトに

三菱重工業が、工場再編に伴い2019年度末をめどに空き地となる長崎市幸町一帯の土地約7ヘクタールについて、跡地活用の事業者を公募する方針であることが分かった。雇用・定住の促進につながることや市民が楽しめることを大きなコンセプトに市内外の事業者を募り、事業者を選定する。具体的な公募方針を月内にも発表する。同工場一帯は、JR長崎駅と浦上駅の間に位置する好立地で、交通の利便性は高く、近くに大型商業施設もある。

三菱重工は15年7月に工場再編計画を発表、再編完了後の跡地については「市にとって重要な場所と認識している。まちづくりに貢献したい」とし、土地売却を軸に、商業系、住宅系、オフィス系など幅広い選択肢で活用法を検討する方針を示していた。

検討に当たっては県と市の要望も取り入れ、雇用や若者の定住の促進のほか、商業系が進出する場合は既存施設と商圏が重複しないことなどが要望されていたという。

工場再編では、三菱重工長崎造船所とグループ会社の三菱日立パワーシステムズ（MHPS）長崎工場の一部事業を対象に、市内外に分散している製造拠点を17年度末をめどに集約し生産性を向上させる。幸町一帯を巡っては、長崎造船所幸町工場の防衛・宇宙関連部門を諫早工場（諫早市）へ、MHPS長崎工場（諫早町地区の蒸気タービン製造部門を長崎市飽の浦地区へ、それぞれ移管し、その後は空き施設となる。（田賀農謙）



公募することが１月に報道されました。計画実現にはまさに絶好の機会であると思われます。

長崎市への公共交通機関で来崎される観光客の多くはＪＲを利用されているようです。また半数以上の方が稲佐山には行かないという現状があります。新しいロープウェイが実現すれば、新しい長崎駅や交流拠点施設に来た人々が、そのままひとつの交通手段で気軽に夜景観光を楽しむことが可能となります。

当初は平成３年の「新神戸ロープウェイ」建設を参考に建設費を15億円程度と予想しておりましたが、視察研修後に試算したところ建設費は約66億円かかるようです。平成7年の阪神淡路大震災、平成23の東日本大震災を経て安全・防災対策のために建設費用が高騰しているということでした。当初の見込みより4.4倍のコストになりました。

長崎市は、「交流人口の拡大」と「地域経済活性化」を図るため、平成34年の新幹線開業に合わせて新長崎駅西側に隣接する交流拠点施設用地に、MICE機能を中核とした複合施設の整備を検討しています。国際会議・学会展示会・見本市、イベントなどの誘致が見込める中核となるMICE機能により国内外の多くの人たちを呼び込むことで、交流人口の拡大と経済の活性化を直接的に生みだすと期待されています。私たちはMICEと同様の可能性を稲佐山に持っています。平成2年の長崎旅博覧会の際に建設された「稲佐山公園野外ステージ」は1万5千人が鑑賞可能です。さだまさし・福山雅治・MISIAなどもライブを行ってきました。平成11年より毎年夏に開催されている「Sky Jamboree」は長崎を代表する野外ロックフェスティバルになっています。

現在は「CDが売れない時代」と言われておりますが、数多くのアーティストの大きな収入源はライブだと言われております。ライブ会場におけるグッズ等の販売は利益率が高く、多くのアーティストがライブに重点をおいています。実際に稲佐山で野外フェスを開催す

るには多くのシャトルバスの手配などが必要です。大規模なイベントであればバス会社数社から50台程のバスを手配して、4～5往復させて対応することが多いようです。ロープウェイ延伸が実現しイベント時に最大稼働させれば1時間当たり1,000人が輸送でき、シャトルバスの割合を減らすことができます。3,000人規模のイベントであれば、ほぼロープウェイで大多数の人々を運べるでしょう。ロープウェイでの来場者はそのまま計画されている展望台と駐車場を結ぶスロープカーで会場につくことができます。新しい長崎駅が起点となるので開催者の負担が減ります。県外からの参加者も迷うことなくロープウェイで稲佐山に行くことができます。野外フェス開催のハードルが低くなれば、多くの野外イベントを誘致できるでしょう。「新三大夜景の中で行われるライブ」、ステージを囲む山に歌詞や映像などを投影するなど、長崎でしかつくれない演出空間があるかもしれません。イベントを重ねていければ稲佐山は西日本野外フェスのシンボルになります。そうなればイベント以外の日でも音楽ファンによる聖地巡礼で来場者数増が想像できます。「有名アーティストのライブが観られる街」になれたら市民の自慢になるでしょう。音楽という文化が根付きます。稲佐山を音楽発信地にしましょう。

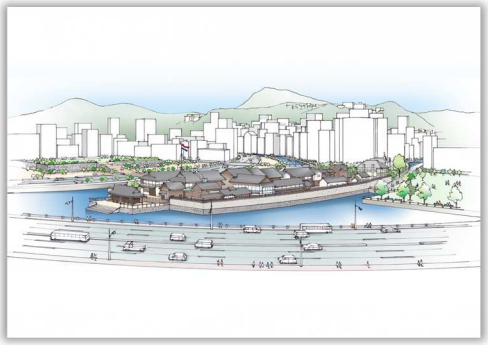
新設は他の交通機関と比較すると、空中権の問題はありますが、直接の土地確保が少なく済みます。約1.2㎞の距離を現在の稲佐山ロープウェイと同じ2台の51人乗りゴンドラが片道約8分で行き来する「交走式」という方式で1時間あたり15回運行することができます。函館ロープウェイと同じ割合で観光客がロープウェイで夜景観光に向かうなら年間180万人の人々を稲佐山へ誘導できると予測します。その場合１時間あたり９回の運行で対応できます。往復500円という利用しやすい料金設定とした場合でも8年程で採算がとれると考えられます。電車・バス・路面電車と共通の電子決済システムが使えるようになれば、利用者が増える可能性はもっと広がります。

将来、新幹線で来崎した観光客が駅に到着するとすぐに「稲佐山行ロープウェイ乗場」の案内を目にすることができるという効果は大きく、多くの人稲佐山を訪れるようになれば稲佐山山頂で多くのビジネスチャンスが生まれることでしょう。

【松ヶ枝ルート】

新幹線が開通した新しい長崎駅より外国からの大型客船が停泊する松ケ枝埠頭までをロープウェイで繋ぐ案です。途中駅を端島（軍艦島）や世界遺産の登録を目指す「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産がある五島列島などへの国内航路の長崎港ターミナル付近におきます。大型クルーズ船の入港数は平成 26 年 75 隻、平成 27 年 131 隻、平成 28 年 197 隻と飛躍的に増えています。平成 28 年の 1 隻当たりの平均船客数は 2700 名で、今後は 3 倍の入港数に増えることが予定されています。ロープウェイで陸路と航路をわかりやすくアクセスできるようになれば、海路からの観光客を長崎観光に誘導できます。

平成 24 年にロンドンオリンピックにあわせて開業したイギリス・ロンドンの「エミレーツ・エア・ライン」はテムズ川両岸約 1 キロを 90m程の高さで結ぶロープウェイです。オリンピック施設の移動手段として計画されたものでしたが、オリンピック終了後も東ロンドンを一望できる観光施設として現在も年間約 150 万人が利用しています。ゴンドラの中では映像スクリーンとアナウンスで地域の歴史の説明や夜景などの美しい展望をダイジェストで視ることができます。「エミレーツ・エア・ライン」のように駅から港をつなぐルートは稲佐山程の高低差はありませんが地上からは高さがあり、港に沿って進む路線は長崎の町並みを間近に一望することができます。出島付近では復元整備される出島の全体を見ることができるでしょう。また日没後には下から見上げる夜景を満喫する



こともできます。また施設に電飾を施し、山からの見える夜景に見どころを増やすこともできます。試算した建設費は約 66 億円です。展望台としての役割も備える新しいロープウェイと直接の比較は難しいと思いますが、長崎市のおよそさ 3 倍の観光客が訪れる福岡市にある福岡タワーには年間約 120 万人が入場します。料金を稲佐山ロープウェイのように 1,200 円と設定し同じくらいの割合でこのロープウェイの利用者数があると考えると年間約 40 万人の利用で 4 億 8 千万円と予測することができます。直接の経済効果もありますが、新しい長崎夜景観光のシンボルとして有効であると考えられます。

【神ノ島公園⇒稲佐山ルート】

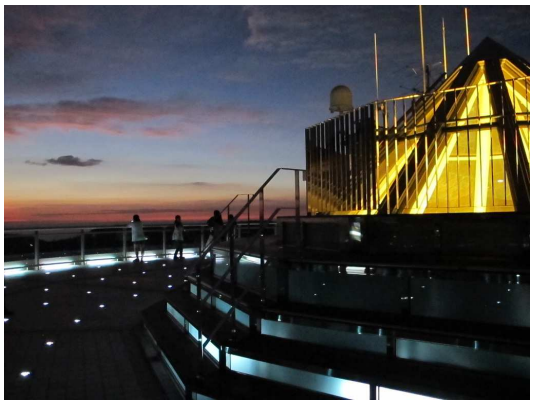
神の島から稲佐山を繋ぐルートです。長崎の夜景の視点場は数多く点在していますが、主に長崎港を中心に北部地区と東部地区に集中しています。西部地区から見る夜景は稲佐山とその麓からの視点場が有名ですが、この地区には他に立神山を含め4つの山があります。特に一番南に位置する天門峰（しらと）は鍋冠山と同じ標高で、山頂からは女神大橋を真下に見下ろし五島灘まで見渡せるパノラマの景色があります。

稲佐山と天門峰をロープウェイで結べば長崎港を縦断する絶景の遊覧観光が可能になります。更に神ノ島公園までロープウェイを延長すれば、長崎自動車道から直接稲佐山へ向かうルートができあがります。神の島公園は女神大橋と南環状線を経由して長崎インターチェンジから約 10 分でアクセスできま

す。高台とその周辺には、東京ドームの約 5 倍の緑地帯があります。ここにロープウェイの神ノ島駅と駐車場を設けることで、大型バスなどでの大勢の観光客や個人客を夜景観光に呼び込むことができます。更に、稲佐山に作る駅は中腹駐車場ヨコのライオンズの森公園の高台に設けます。ロープウェイから見る稲佐山展望台と電波塔の景色は長崎港を背景にした素晴らしい絵となり、長崎夜景の新たな撮影スポットとなるでしょう。
また、長崎市では新たなアクセスとして稲佐山展望台と中腹駐車所を結ぶスロープカー整備を始めます。相乗効果で更に観光客を呼び込むことができます。約 4 キロの路線は建設費を約 260 億円と試算しました。稲佐山ロープウェイと同程度の 1,200 円の料金設定であれば、来崎される年間約 699 万人の観光客 3 割の利用があれば 10 年で償還できる計算です。神ノ島ロープウェイと大型駐車場が整備されればこれを起点として、隣接するサンセットマリーナがある福田地区や新長崎漁港がある京泊地区、世界遺産候補のある外海地区にも波及効果が広がると考えられます。夜景観光と世界遺産候補、地域の特色を活かした経済の活性化を図る観光交流の場にもなるでしょう

5.提言 2　夜景ガイドの確立と積極的活用

長崎の夜景観光の発展には、稲佐山展望台へのアクセス向上と共に、稲佐山で観光客をいかにもてなすかが重要になってきます。そこで夜景ガイドの確立と積極的な活用を提言します。



現在の稲佐山の夜景ガイドについては、一般社団法人夜景観光コンベンションビューローが監修する「夜景ナビゲーター」があります。現在は毎週土曜日の午後 7 時から 9 時まで、稲佐山展望台に夜景ナビゲーターが待機し無料のガイドツアーを実施しています。利用者はガイド時間内までに稲佐山展望台の受付に来ていただき、展望台からの夜景を中心にガイドが案内していくという内容です。またバスによるガイド付きの「夜景見学ツアー」も予約制で運行されています。しかし夜景ナビゲーターの存在はインターネットでの宣伝も特にありませんし、展望台に上ってみて時間が合えば初めてその存在に気付くというような状況で、それ以外の時間帯では展望台にいても知ることができず、観光客にも地元住民にもあまり認知されていないように思います。活動時間が限られており、せっかくのガイドが長崎の夜景観光の魅力向上にあまり活用できていないように思います。

夜景ガイドは今後、長崎の夜景観光の魅力を発信していく上での重要な要素として捉え、

様々な展開をしていくべきではないかと考えます。以下に、いくつかの案を記載します。

【稲佐山のアトラクション化】

佐世保にはハウステンボスがありますが、長崎市内には大きなテーマパークはありません。そこで、稲佐山全体をひとつの大きなアトラクションと捉え、単なる展望台ではなく夜景テーマパークとして細部までこだわって作り込んでいきます。ガイドは単なる夜景の案内人ではなく、アトラクションを盛り上げる重要なキャスト（演者）として動いてもらいます。

イメージとしては、例えばロープウェイ→展望台までの→展望台内→帰路を一連の流れとしてひとつのストーリー仕立てにし、夜景の話、歴史の話、星空や神話の話などを交えながらガイドの誘導で進んでいきます。ガイドは「東京ディズニーランド」や「ユニバーサルスタジオジャパン」のアトラクションのキャストの様に、案内しながらもいろんなパフォーマンスや演技を交えながら盛り上げていきます。ガイドの服装やロープウェイ内の装飾、ルート上の仕掛けなども徹底してこだわることで、参加費を払ってでも参加したい内容までクオリティを高めていき、他にはない唯一無二の夜景スポットになります。

ガイドは比較的若い人を対象にオーディションなどを実施し、その模様はテレビで放映します。そうすることで夜景ガイドのステータスが上がり、私も夜景ガイドになりたいという希望者が増え、夜景ガイドの質も上がっていくという好循環を生みます。

【夜景観光と宿泊業・飲食サービス業との連携】

思案橋や銅座を中心とした長崎市内の宿泊業・飲食サービス業のスタッフたちが夜景ガイドとして稲佐山の夜景を案内します。ガイド終了後はそのまま思案橋・銅座界隈へお連れし、夜の長崎の食文化を楽しんでもらうという流れを作ります。

狙いとしては、夜景を楽しんだ観光客が、すぐにホテルに帰るのではなく思案橋・銅座界隈で飲食してもらう流れを作ることで、花街文化や「和・華・蘭」の食文化の PR にもなり、夜景観光からの経済効果が広がると思います。そして夜景ガイドとして学んでいただいたスタッフを通して夜景ガイドを利用されなかったお店のお客様にも長崎の夜景の素晴らしさを伝えることができるようになります。夜景ガイドの運営をビジネスとして確立し、夜景ガイド数の確保も安定するではないかと思います。発展形としては、「夜景認定店制度」を作り、夜景ガイドができるお店を限定的にすることも良案かと思います。試験などを実施し一定レベル以上の夜景知識を持ったお店のみが夜景ガイドをすることができ、そのお店には夜景にまつわるオリジナルメニューを考案・提供してもらい、夜景との関連性を持たせます。

【長崎夜景観光大使の制定】

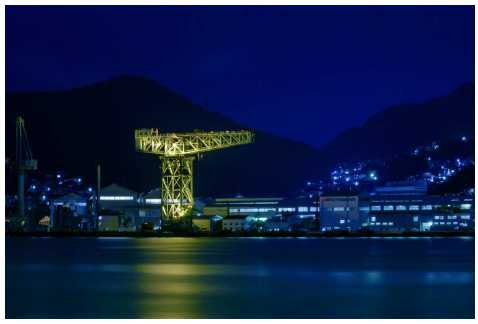
夜景ガイドの中でも特に知識や話術などスキルの高い数名を夜景観光大使に任命します。夜景観光大使は長崎市内で夜景の案内をするだけでなく、各地で行われる長崎の魅力アピールイベントにも出張し、長崎の夜景の魅力をアピールしてもらいます。定期的に、夜景観光大使と行く夜景ツアーなどと銘打ったプレミアム感のあるツアーを実施することも、集客アップにつながるかと思います。

3 つの案を例示致しました。実現可能なものや中には非現実的なものもあるかもしれませんが、全ての案を通して言いたいことは、夜景ガイドの認知度を高め教育を徹底することで、夜景観光に来られる方へのおもてなしの体制を整え満足度を高めるとともに、長崎の若者にとっての夜景ガイドのステータスを向上させ、私も夜景ガイドになってみたいと思ってもらえるような存在にしていきたいということです。

夜景ガイドの確立と同様におもてなしの一環として、**水上バスの運行**もいいかと思います。コンセプトとしましては、稲佐山展望台に上り上からの夜景を楽しんでいただいた後は、水上バスに乗り間近で「ジャイアントカンチレバークレーン」や「女神大橋」などのライトアップを楽しんでいただき、より一層長崎の夜景を堪能していただくというものです。

こちらにも夜景ガイドに同乗してもらい、展望台からでは見えなかった各箇所の細かい部分まで案内をしてもらいます。

このように、いろんなコンテンツをわかりやすく発信していくことで、長崎の夜景を一度見た人ももう一度行ってみたいと思ってもらえるような観光資源となり、リピーター率の向上は長崎夜景の発展につながります。地元の方々からも長崎の夜景が自分たちにとって素晴らしい財産なのだと感じていただき、誇りに思ってもらえるものになっていくかと思います。



６．提言３　子供達から誇りをもって！　～シビックプライドは子供から～

観光産業を地方において活性させるには、ハードの充実、ソフトの充実、そして市民の意識改革が重要です。長崎市に対する思い郷土愛を深め、観光都市長崎を誇りに感じることで、市民全員が当事者意識を持ち「観光客へのおもてなし」を行い、また市外に出た市民も観光伝道師として「長崎市の良さ」を全国、全世界へ伝えてくれることでしょう。

つまり、夜景世界一のまち長崎を目指すということは、長崎の夜景を愛し誇りに思う「**世界一のシビックプライドを持つまち**」にすることです。ただ大人の意識を急激に変えていくのは、困難です。そこで、私たちは若年世代からのシビックプライドの育みを提言します。現在長崎市の小学校で行われている「平和の啓蒙を目指す平和学習」同様、長崎市の観光、夜景に興味を持ってもらい、その素晴らしさを体感し子供たちにもっともっと長崎を「好き！」になってもらいます。事実、平和学習においては全国的にも群を抜いて長崎の子供たちの平和に対する意識は高く「平和のまち長崎」に対する思いは身についています。幼少の頃より、長崎の夜景に触れる（体験する）機会を多く作ってあげることが必要です。子供たちが世界一の夜景を感じることで誇りに思い、大人になって県内でも県外でも長崎の伝道師となってくれることでしょう。また、子供たちがシビックプライドを持つことで親の世代にも波及し、さらに子供たちの次の世代にも引き継がれることでしょう。

現在、子供たちが稲佐山に登った経験はあっても夜間ということもあり夜景に触れる機会は少なく限られています。そこで、長崎の夜景に子供たちが触れる機会、または稲佐山に注目する企画を提案します。この「ながさき　大好き！こども夜景　プ

ロジェクト」を官民一体となって行うことで世界に誇れる市民全員で作る観光都市長崎に成長していくことでしょう。

【ながさき大好き！子供夜景プロジェクト】

☆こども夜景探検隊

　バスやロープウェイを利用し夜景体験を行うミニツアーを実施します。視点場のスタンプラリーやこどもフォトコンテストも行います。運営は学校や青年団体等。

☆こども夜景キャンプ in いなさやま

稲佐山公園でキャンプを行います。夜景に触れ天体観測等も行います。

☆アニメ上映会 in いなさやま

　アニメ上映会を開催し稲佐山と夜景に興味を持ってもらいます。また、稲佐山でアニメロケを行い聖地化し話題を作ります。

☆いなさやまのクリスマス♪稲佐山のクリスマスツリー

稲佐山を世界一のクリスマスツリーにします。展望台でクリスマスイベントを開催し興味を持ってもらいます。１２月よりクリスマスソングを流しサンタを展望台に配備。サンタは稲佐山にいてお願いするとプレゼントが届くストーリーを作ります。

☆いなさやま子供ミニスキー場／スケート場

長崎市では体験することが少ないスキー場やスケート場を作ります。
夜景が見えるスケート場はロマンティックです。

☆いなさやま親子カウントダウン♪

稲佐山でカウントダウンイベントを行います。素敵な夜景を見ながら年を越します。そのまま初日の出を拝むのもいいでしょう。

☆いなさやまで合格祈願「お願い！いなさやま！」

　渕神社とも連携して「稲佐山に登り夜景を拝むと合格する」というストーリー（エピソード）を作ります。稲佐山おみくじ、稲佐山お守り、稲佐山絵馬など合格グッズを作ります。受験生が殺到することでしょう。

☆今日のいなさやま　テレビ CM

　テレビのお天気コーナーのように「今日の稲佐山」をスポット放送。
夜景の状態や天気、気温を伝えます。子供たちがリレー放送しても面白いと思います。

☆いなさやま少年自然の家

　稲佐山に少年自然の家を整備します。子供のうちに必ず訪れることとなり夜景に触れる機会も増えます。現在ある自然の家より利便性もよくなります。

いなさやまプラネタリウム・いなさやま天文公園

稲佐山にプラネタリウムを整備、もしくは天文公園化します。天文学習しながら夜景に触れることができます。

各運営整備に関しては、経済団体や青年団体、民間企業が協力し、行政と連携しながら行っていきます。学校教育の中でもシビックプライドを育む授業を行います。すぐに効果は出ませんが、将来の子供たちのために、未来の長崎のために根気強くシビックプライドを育んでいきましょう。

７．まとめ

観光産業をさらに伸ばすために「夜景」のさらなる活用として「ロープウェイ延伸」「おもてなしの充実」「こども夜景プロジェクト」を提言させていただきました。長崎市も夜景の魅力・維持の為「長崎夜景観光推進基本計画（仮）」をすすめています。年々来崎する観光客も増え長崎夜景に対する環境が良くなっている今こそ市民が夜景の素晴らしさを実感し、そこから長崎に対して持つ「誇り・愛着」、即ち「シビックプライド」を育み長崎以外の多くの人にも夜景をはじめとして長崎の素晴らしさを伝えていただけるようになればもっと地域が活性します。市民の一人一人の高まっていく「シビックプライド」は当事者意識を芽生えさせ、長崎はより魅力的なまちに変わっていくでしょう。長崎 YEG はその入り口となる「長崎の夜景は世界一だ！」という思いを多くの人に持ってもらうように提言を重ね、実行していきます。